

## News release

### 2017年の自然災害による大規模な損失と、現在の低水準な価格により 損害保険・再保険事業の保険料率は上昇の見通し

- 2017年の大規模な自然災害の発生と現在の低水準な価格により、損害保険・再保険事業の保険料が押し上げられる見通し
- 世界経済の拡大局面は2018年と2019年も継続すると見込まれ、保険料収入の伸びを下支えする
- 今後2年間で、世界の損害保険料は実質ベースで少なくとも年率3%、生命保険料は4%伸びると予想
- 新興国市場は引き続き世界の損害保険料と生命保険料の伸びの原動力となる見通し

ロンドン、2017年11月21日 – スイス・リー・インスティテュートのレポート『世界の保険:2017年のレビューと2018年/2019年の展望』によると、損害保険・再保険の料率が上昇すると予想されています。2017年下半期には大規模自然災害事象が複数発生し、損害保険(P&C)セクターのキャパシティが大きく減少しました。また、ここ数年間で著しく下落した価格も低迷しています。世界経済は拡大局面にあり、2018年と2019年については緩やかな成長が見込まれています。これは保険市場の成長をさらに支える要因となるはずであり、2018年と2019年については世界の損害保険料が実質ベースで少なくとも年率3%以上、生命保険料はおよそ4%増加すると予想されています。特にアジアの新興国市場は、引き続き保険料収入の伸びの主な原動力となると思われます。

ハリケーン「ハービー」「イルマ」「マリア」、メキシコ地震、カリフォルニアの山火事など、一連の大規模自然災害が2017年下半期に発生し、損害保険・再保険業界に巨額の損失をもたらしました。3つのハリケーンとメキシコ地震の保険損失額は950億米ドルにのぼると推定され、損害保険・再保険の通期の引受業績に深刻な影響が及ぶ可能性が高くなっています。例えば、米国損害保険の2017年のコンバインド・レシオは109%へ上昇することが予想されており(2016年は101%)、世界の再保険のコンバインド・レシオは、今後大きな自然災害が発生しないことを前提として2016年の92%から今年はおよそ115%に上昇すると予想されています。

大規模な損失は、損害保険と損害再保険の両方における料率の上昇につながると考えられます。スイス・リーのチーフ・エコノミストであるカート・カールは次のように話しています。「損害を受けたセグメントでは価格の上昇がすでに始まっており、これはかなり大きくなる可能性もあります。最終的な損失額はまだ判明していませんが、被害のあった業種以外においても価格上昇の原因になり得る大きな損失額が見込まれています。この価格上昇は、

Media Relations, Zurich  
Telephone +41 43 285 7171


Kurt Karl, Armonk  
Telephone +1 914 828 8686

Roman Lechner, Zurich  
Telephone +41 43 285 2344

Clarence Wong, Hong Kong  
Telephone + 852 2582 5644

Swiss Re Ltd  
Mythenquai 50/60  
P.O.Box  
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121  
Fax +41 43 285 2999

[www.swissre.com](http://www.swissre.com)  
 @SwissRe

ここ数年間にわたり低水準価格が続いていたことも原因となっています。」再保険においては、これらの自然災害が伝統的再保険および代替的資本再保険の両セクターからキャパシティを大きく減少させました。損失の影響を受けた保険勘定の料率は、大幅に上昇する可能性があります。

### 世界の経済は拡大局面

世界経済の成長の勢いは 2017 年に改善し、2018 年と 2019 年にも緩やかな成長が見込まれています。米国では、2017 年と 2018 年の国内総生産(GDP)の伸びはおよそ 2.2%の安定を保つと予想されます。ユーロ圏は、2019 年に減速するまでの期間、今年から来年にかけては約 2%で伸びると見られています。中国経済の 2017 年の伸びは推定 6.8%となり、2019 年には減速して 6.2%になることが予想されます。インフレは大部分の国で小幅な推移を維持していましたが、米国では徐々に上昇する見込みです。全体的に、金利は引き続き低く抑えられる予想です。米国と英国では、各中央銀行が今後数年をかけて政策金利を徐々に引き上げるとみられており、これを受けて長期国債の利回りも緩やかに上昇するものと期待されます(例えば、米国においては来年末までに 3.2%に上昇する予想)。

こうした比較的良好な成長の見通しは、いくつかのリスクによって妨げられる可能性もあります。例えば、世界経済の成長にとって、保護主義の傾向がますます大きな脅威となります。また、各国の中央銀行による量的緩和プログラムの改編が、金融市場のネガティブな反応を誘発する可能性もあります。さらに、中国における企業債務の水準が高止まりしていることも、対策が講じられているとはいえ、引き続き懸念材料となります。

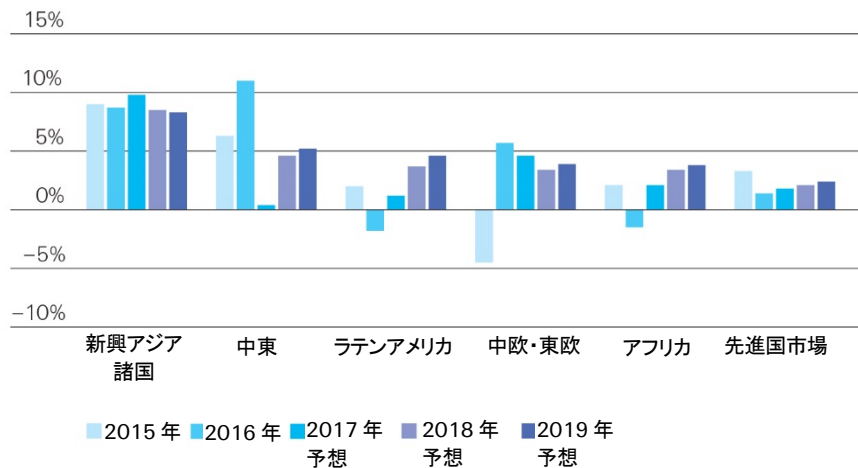
### 損害保険料の伸びは引き続き安定の見込み

経済見通しの改善は、損害保険需要の押し上げにつながることを期待されています。世界の損害保険料の伸び率は 2018 年と 2019 年に少なくとも 3%と予想されており、期待される価格上昇の幅によってはこれよりもかなり大きくなる可能性もあります。新興国市場は引き続き主な成長要因となる見通しで、保険料収入も今後 2 年先までは年率換算で、2017 年とほとんど変わらない実質 6~7%の伸びが予想されています。新興国市場の全体的な損害保険料の伸びは、大部分の地域における経済の安定化を映し出しています。加えて、損害保険事業は都市化、持ち家率およびマイカー所有率の上昇の恩恵も引き続き受けます。環境保護、食の安全、財物リスクにおける過少保険についての懸念も徐々に浸透し始め、関連する賠償責任や財物の補償に対する需要が喚起されることが期待されます。

2017 年に世界の損害保険業界の収益性は悪化し、株主資本収益率(ROE)は 3%に減少しました(前年同期は 6%)。この減少には、主に 3 つの要因が関与しています。それは、引受条件の軟化、投資利回りの低迷、巨大災害による損失です。保険会社の保険収益は、ここ数年にわたり超低金利環境が続いたこともあって低迷が続き、今後もすぐには回復しないと思われます。金利の上昇が緩やかなことから、投資収益も金利上昇に遅れた、ゆっくりとした成長に留まるでしょう。したがって、損害保険全体としての

収益性は引受条件が好転する 2018 年と 2019 年には伸びが予想されますが、改善の程度は業界 ROE でおよそ 7~8%と緩やかになります。

図表 1: 損害保険の実質保険料の地域別伸び(2015 年~2019 年予想)



出所: スイス・リー・インスティテュート

損害再保険については、新興国市場からの出再の急速な増加に基づき、2017 年の世界の保険料は実質ベースで 3%伸びると予想されます。2018 年から 2019 年にかけて、新興国市場の保険料は全地域における好調な元受保険の販売にけん引され、安定した伸びを維持すると思われる。先進国市場では、保険料収入の伸びは料率の緩やかな上昇と元受保険市場の堅調な成長を反映したものになるでしょう。

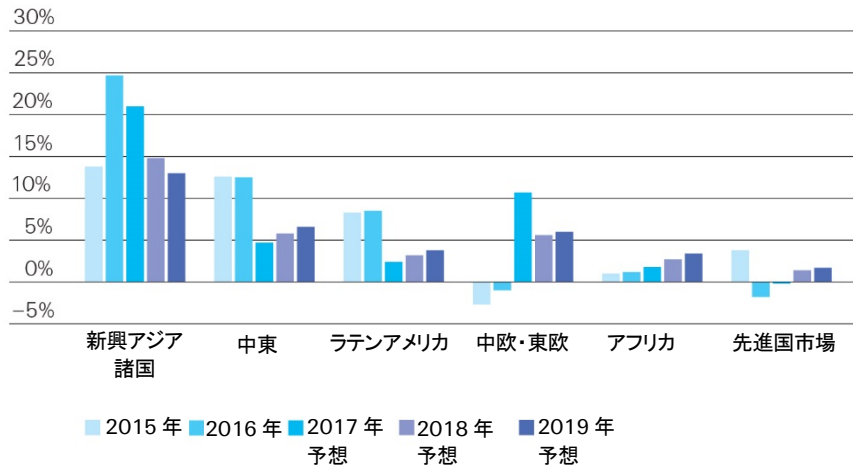
### 新興国市場の好調な販売に後押しされる生命保険料

世界の生命保険料収入の伸びは、2017 年に約 3%となる見込みです(前年度は 2%)。これを下支えしたのは、特にアジアを中心とする新興国市場での貯蓄型商品の堅調な業績でした。保険料は今後 2 年間にわたり、年率で 4%近い伸びが期待されます。主な原動力は引き続き新興国市場で、保険料収入は 2018 年と 2019 年におよそ 10%伸びると予想されています。なかでも中国は、有利な政策環境に支えられて引き続き圧倒的な地位を占めるでしょう。中国政府は生命保険と損害保険を合わせた保険普及率を 2014 年のおよそ 3%から、2020 年までに 5%とすることを目指しています。経済支援政策には税制優遇措置、保障・医療・年金商品の促進策が含まれ、これが結果的に保険会社のポートフォリオミックスの内容を変える可能性もあります。中国の保険会社はさらにデジタル技術の活用も増やしており、効率や顧客体験の向上を目指しています。

一方で生命保険セクターの収益性は、低金利の影響から厳しい状態が続いています。このような環境の中、保険会社は、流動性の低い資産クラスに対する選好を強めていることからわかるように、より高いリターンを求めて自社の投資ポートフォリオの再構成を継続しています。多くの生命保険会社が、魅力がより大きく、資本集約度の低い保険種目に重点を移すための保

険ポートフォリオの再構築を行いました。インフォースマネジメントも、収益性改善のための効果的なツールとして、認知度をますます高めています。

**図表 2: 生命・医療保険の実質保険料の地域別伸び(2015年～2019年予想)**



出所: スイス・リー・インスティテュート

世界の生命保険の再保険は、北米と欧州の低迷に押し下げられ、今年と来年以降の2年間にわたり伸び率が1%をわずかに上回る程度にとどまる見通しです。アジアの先進国と新興国の強さは、その弱さにいくぶん相殺されます。新興国市場の生命保険の再保険は、2018年と2019年に年率で10%以上の伸びが予想されています。多くの新興国市場においてリスクベースの規制制度が導入されることから、再保険セクターはその恩恵を受ける公算が大きくなっています。しかし、サブサハラアフリカなどの一部の地域では政府が自国の保険会社に有利になるように保護主義的な動きをとったり、外資系再保険会社に対して追加担保要件を突き付けてきたりなど、元受保険と再保険の両方の保険料収入の伸びの勢いを衰えさせかねない要因も見られます。

## スイス・リーについて

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接、またはブローカーを通して、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテイラーメイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界約80カ所で事業拠点を展開しています。スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa3」、A.M. Best から「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所のメインスタンダードに準拠して上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループに関する詳細は、ウェブサイト([www.swissre.com](http://www.swissre.com))をご覧ください。または Twitter で(@SwissRe)をフォローしていただきますようお願い致します